



レッドリボン30周年 ~ Think Together Again ~

レッドリボンは、「世界エイズデー」キャンペーンをはじめ、HIV/エイズに関する運動の世界的なシンボルです。

このレッドリボンがエイズのために使われ始めたのは、エイズが社会的な問題となりつつあった30年前のアメリカです。1991年にニューヨークの芸術家たちが、エイズで亡くなった仲間に対する追悼の気持ちとエイズに苦しむ人々への理解と支援の意思を表明するため、レッドリボンをシンボルとする運動を始めました。それから30年が経過してもなお、「レッドリボン」に込められた思いは変わりません。

一方、これまで HIV/エイズに対して様々な取組がなされてきました。

治療法の進歩により HIV 陽性者の予後が改善された結果、HIV 陽性者は感染の早期把握、治療の早期開始・継続によりエイズの発症を防ぐことができ、HIV に感染していない人と同等の生活を送ることが期待できるようになりました。また、治療を継続して体内のウイルス量が減少すれば、HIV に感染している人から他の人への感染リスクが大きく低下することも確認されています。

つまり、治療の進歩で HIV陽性者の生活は大きく変わり、HIV 感染の予防にもその進歩に支えられた様々な選択肢が用意されるようになりました。しかし、現状はそうした変化が正確な情報として十分に伝わっているとは言えず、有効な治療法がなく死に至る病であった時代の認識にとどまっている場合が少なくありません。

そこで、今年度の「世界エイズデー」キャンペーンテーマは、HIV/エイズへの理解と支援のシンボルである「レッドリボン」を中心に据えることとしました。レッドリボンが使われ初めて30周年の節目において、このシンボルに宿る意味を原点に立ち返って考えるとともに、HIV/エイズに関する検査や治療、支援などの知識を身につけ、HIV 検査の受検促進や差別・偏見の解消につなげていきたいと考えています。

12月1日は「世界エイズデー」です。世界エイズデーは、世界レベルでのエイズのまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、WHO(世界保健機関)が1988年に制定したもので、毎年12月1日を中心に、世界各国でエイズに関する啓発活動が行われています。



きちんと知ろう エイズのこと



エイズって何？

HIV(ヒト免疫不全ウイルス)に感染することによって起こる病気。でも、HIV 感染=エイズではありません。適切な治療で、エイズ発症を予防できます。

どうやって感染するの？

性行為による感染、血液を介した感染、母子感染などです。一緒に食事をする、タオルを共有する、同じトイレを使うなど日常生活の中では感染しません。

感染の心配があるときは？

保健所や病院などで検査が受けられます。保健所では、名前や住所を知らせず、無料で検査できます。予約が必要な場合もあるので、事前に確認を。

感染しない



感染者のくしゃみ 握手 トイレやお風呂



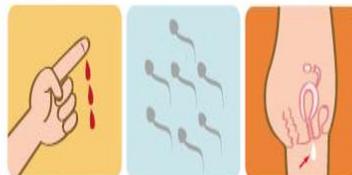
蚊や虫にさされる ジュースの回し飲み

エイズはこんなことでは感染しません

感染する



性的接触 注射器 母子感染



血液 精液 膣分泌液

自分が傷つけない
相手を傷つけない



どれも、罪に問われる可能性があります。
「楽しくてつい…」では済まされません。

寒い季節の換気テクニック

寒 い日に窓を開けると、急激に部屋の温度が低くなるので、暖房器具を工夫しながら換気をしよう。



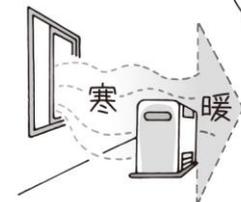
短 時間、窓を全開にするよりも、一方向の窓を少しだけずっと開けっ放ししておくほうが室温の変化を抑えられます。



台 所などの換気扇を使うと、室温を急激に下げることなく換気をすることができます。



暖 房器具の近くの窓を開けると、窓から入ってくる冷えた空気がすぐにあたためられるのでオススメ。



カーテンなどの燃えやすいものは暖房器具から離そう(火災予防!)